

令和8年度学校経営方針

世田谷区立弦巻中学校
校長 前田 浩

1 学校経営の基本となる考え方

中学校教育は、生徒の心身の発達段階と特性を十分に踏まえて、知・徳・体の調和のとれた発達を促すとともに、他者とのかかわりと多様な経験によって、これからの社会を生き抜いていく力が身に付くよう指導することが責務である。義務教育の終盤に当たり、小学校との効果的な接続の下、自己の可能性を広げ、将来に対する強い意欲と自信をもてるよう支援することが重要である。

そこで、本校は、人権尊重の精神を基盤として、質の高い教育を実現させるための教育的諸条件（教育内容・教育方法・教育環境など）を整備し、教職員が生徒・保護者・地域の願いを真摯に受け止めながら、厚い信頼が得られる教育活動の展開をめざしていく。

学習指導要領の趣旨を踏まえ、本区の教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」と4つの基本方針「①新しい知を創造する」「②地球の一員として行動する」「③多様性を受け入れ自分らしく生きる」「④共に学び成長し続ける」を具現化する学校経営を行っていく。

また、せたがやインクルーシブ教育ガイドラインに則り、生徒が共に学び、共に育つ教育をめざすとともに、特別支援学級（知的障害）と特別支援教室では、生徒一人ひとりの特性に応じた教育を一層推進する。

2 教育目標

- | | |
|-------------|---|
| ○ 優心 | 優しく他人を思いやり、自らを律し、社会に貢献しようという心をもった生徒の育成を図る。
【特別支援学級】
優しく他人を思いやる心と困難に負けないたくましい心を育て、人のために役立ちたいという意欲的態度をもつ生徒の育成を図る。 |
| ○ 優考 | 自ら探究心をもってよく学び、物事を深く考えて人に伝えることができる生徒の育成を図る。
【特別支援学級】
興味・関心をもって学び、自ら考えて人に伝えることができる生徒の育成を図る。 |
| ○ 優健 | 自らの健康を意識し、心身ともにたくましく成長する生徒の育成を図る。
【特別支援学級】
自分の健康に関心を持ち、心身ともにたくましく成長する生徒の育成を図る。 |

3 重点目標

(1) 優心

共生社会の実現に向けて、人権課題を自分事として考え、多様性を尊重しながら共に学び共に育ち、成長し続け、多様な価値観に対して共感できるようにする。

(2) 優考

キャリア・未来デザイン教育の実現のため、「せたがや探究的な学び」の質的改善を図り、自分の人生をデザインしながら自分らしく学ぶことができるようにする。

(3) 優健

運動やスポーツに親しむ取組を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育む。

4 重点目標を達成するための指導の重点事項

(1)人権尊重の教育を推進する。

生命の大切さ、尊さについて指導することをすべての教育活動の根幹とする。生徒一人ひとり はかけがえのない存在であり、人権尊重の理念を正しく理解し、人権に対する正しい知識と態度が身に付くように指導する。多様性を尊重し、共生社会を築く担い手としての感覚を磨くとともに、いじめは重大な人権侵害であるという認識の下、しない、させない、見逃さない指導を徹底する。【優心】

(2)合意形成を大切にしたい集団活動を行う。

相互理解と相互尊重を基盤に話し合い活動を行う。特別活動では話し合うことで、現実的な最適解を見出し、それを実践できるように指導していく。【優心】

(3)「生徒が」を主語とする授業デザインを描く。

自ら問いをもち、自分に合った学習課題を設定できるように支援する。課題解決には自力解決と協働解決の両方を効果的に取り入れる。【優考】

(4)探究プロセスを活用した授業づくりを、総合的な学習の時間の基本スタイルとする。

総合的な学習の時間は、生徒が自ら社会生活と関連付いた課題を設定するところから始める。教員は生徒の課題設定に必要な情報提供や適切な問いかけに努め、両者がゴールイメージを共有しながら学習を進める。【優考】

(5)デジタルネイティブ世代に焦点を合わせ、ICTの有効な活用を図る。

知的好奇心を掻き立てたり、学び合いや教え合いを促したりしていくために、すべての教科・領域の学習の中でタブレット端末を有効活用する。(教育DXの推進)また、タブレット端末は、個別最適な学びや家庭学習の支援のツールとしても利用を促進する。【優考】

(6)言語環境を整え、言語活動を充実させる。

ことばの力を実感でき、自分の言葉に責任をもてるよう指導していく。あいさつを人間関係づくりの第一歩とする。【優心・優考】

(7)幼保・小・中の連携を大切に、地域社会の一員としての自覚を促す。

優郷の学び舎内の児童（幼児）との交流場面を創出する。年少者の立場に立った経験により、寛容な態度を育み、学び舎内のリーダーとしての自覚を高めていく。地域での貢献活動を通して、自己のよさに気付いたり、自己効力感を感じたりできるようにする。【優心・優考】

(8)将来への希望と展望をもたせ、キャリア・カウンセリングを充実させる。

キャリア・パスポートは、生徒のキャリア形成に資する好材料であるという認識の下、活用機会を意図的に設けることで、生徒が自己の変容を客観的にとらえ、将来に向けた生き方の具体的な目標をもてるようにする。キャリア・パスポートを教育相談の主たる材料とし、生徒の語りを軸に、学校と保護者が理解・協力し合いながら生徒の支援ができるようにする。【優心・優考】

(9)健康や安全に対する行動力を高める

運動の楽しさを味わえる工夫をしていくとともに、自己の生活習慣や生活環境をよりよくしようとする態度を育む。学校内外の安全については、想像力を働かせ、想定外の場面での危険回避ができる実践力が身に付くことに努める。インターネットやSNSを安全・適切に使うための判断力を高めていく。【優健】

5 めざす教職員像

学校は、教育目標の達成をめざし、生徒一人ひとりがこれからの社会を生き抜いていく力を着実に身に付けられるよう指導することを使命とした組織体である。

VISION (ビジョン) の共有・・・目標と手段を共有する

MISSION (ミッション) の自覚・・・自己の役割と組織貢献の自覚をもつ

ACTION (アクション) の実現・・・時代の要請に敏感になり、生徒に必要な指導や支援は、躊躇しない

【めざす教職員像】

- 豊かな人間性と教育への情熱をもつ教職員
- 自己を高める意欲の旺盛な教職員
- リスペクトし合う教職員
- 生徒のモデルとなる教職員

(1) 服務の厳正

教職員の非行は、学校にかかわるすべての人々への背信行為であり、これまで積み重ねてきた学校関係者の努力を一瞬にして打ち消してしまう。真の信頼回復には、想像を絶する力が必要であることを肝に銘じる。

- ①体罰 ②生徒の立場や心情をわきまえない言動(暴言・不適切な対応) ③わいせつ行為
- ④ハラスメント ⑤会計事故 ⑥個人情報の不適切な取扱い ⑦職場のコンピュータ不正利用
- ⑧秘密の漏洩 ⑨交通事故 ⑩出退勤の不正申請など、あらゆる非行を根絶する学校風土を築く。

特に、生徒への言動は、公平性が保たれ、生徒が安心感と学校への信頼感を得られるものとすることを忘れない。

(2) 質の高い教師力

かかわる教師

かかわりは信頼の第一歩。誰に対しても誠実に。学ばせ方の上手な指導者に。

称える教師

共感する力が生徒の安心を作る。
自己効力感が生徒を伸ばす。

鍛える教師

常にワンランク上を求める厳しさが生徒をさらに伸ばす。

(3) 支え合う教職員

- ①受容と協調の人間関係を基本に仕事を行う。
- ②報告・連絡・相談・確認を大切にする。(悪い情報ほどスピードと共有が必要)
- ③情報は宝。情報をつなぎ合わせて、核心に迫る。(背景の理解をしっかりと)
- ④課題を1人で抱え込まない。(複数のアイデア、複数の対応で状況打開)
- ⑤真似ることの上手な教職員になる。(身近なモデルから吸収する謙虚さをもつ)
- ⑥時間を無駄にしない。(決めた時間で始め、決めた時間で終わることが次の余裕を生む)
- ⑦危機対応は「さしすせそ」を合言葉に対応する。

さ・・・最悪を想定して **し**・・・慎重に **す**・・・速やかに **せ**・・・誠実に **そ**・・・組織的に

(4) 好感のもてる接遇態度（社会人としての常識的な対応マナー）

【来校者に対しては】

- ①あいさつ、笑顔、声かけを大切に
- ②親切な対応を普通の対応に

【電話の対応では】

- ①ワンコールで受話器をとる習慣を
- ②名乗ることで安心感を与え、顔が見える会話を心がける。
- ③取次ぎは、待たせないことが鉄則

(5) 働き方改革の着実な推進

- ①学校が行うべき業務を整理する。（慣例を見直し、やめることを後退と考えない。）
- ②配布文書は学校統一様式を基本とし、文書作成量を減らす。
- ③会議のあり方、必要性を見直すと共に、実施の開始時刻と終了時刻を厳守する。
- ④部活動に関するガイドラインを遵守し、地域移行を段階的に進める。
- ⑤学校組織が機能的、効率的に運営できるよう見直しを継続する。
- ⑥地域人材や学生ボランティア等、学校を支える人材を活用する。
- ⑦毎週水曜日をノー部活デーとし、放課後の時間に余裕をもてるようにする。また、8月は校内一斉に定時退勤月間とする。
- ⑧夏季休業中と冬季休業中の部活指導では、1週間以上の連続した休業を保障する。
- ⑨チーム指導（輪番制）を積極的に導入する。（例：特別の教科道徳、給食指導）
- ⑩My (Our)働き方改革を尊重、推進していく。

6 優郷の学び舎の教育計画

(1) 学び舎の教育目標

【優心】 優しく他人を思いやり、自らを律し、社会に貢献しようとする心をもった、幼児・児童・生徒の育成を図る。

【優考】 自ら好奇心・探究心をもって、よく学び、物事を深く考えて人に伝えることができる、幼児・児童・生徒の育成を図る。

【優健】 自らの健康を意識し、心身ともにたくましく成長する、幼児・児童・生徒の育成を図る。

(2) 教育目標を達成するための基本方針

「優心：人間形成領域」

- ①「マナー・あいさつ・言葉づかい」を大切にする態度の向上に取り組む上で、学校関係者評価のアンケートに関連する項目を設定し、そのアンケート結果を検証し、さらなる充実を図る。
- ②2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の取組を通して培ってきた「障害者理解」、「ボランティアマインド」等の資質をさらに発展させ、多様性を尊重する態度や社会貢献、他者を思いやる心をレガシーとして醸成していく。また、「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の醸成に引き続き取り組み、日本人の規範意識等を学び、豊かな国際感覚を養う。
- ③「特別の教科 道徳」について研修・研究を行い、授業の充実を通して、児童・生徒の道徳性を養う。

「優考：学力形成領域」

- ①「ことばの力を高める活動」に学び舎の授業研究の主題として取り組むとともに、「主体的・対話的で深い学び」を計画的に実施し、タブレット端末などのICT機器の効果的な活用を図りながら、児童・生徒の思考力・判断力・表現力などの向上を図る。

- ②朝読書などの読書活動の充実や、学校図書館を活用した調べ学習、調べた内容を発表する活動を計画的に進め、読書習慣の形成を目指すとともに、表現力・思考力・判断力を身に付けさせる。

「優健：体力形成領域」

- ①「健康を保持・増進する能力」の育成に向けて、「快食・快眠・快運動」を奨励し、食育の視点を含め、健康に対する意識を高め、日頃の生活習慣の向上を図る。
- ②2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の取組を通して培ってきた「スポーツ志向」の更なる醸成を図り、心身共に健全な幼児・児童・生徒を育てる。

(3)「キャリア・未来デザイン教育」の実現に関する研究・研修テーマ(重点項目)

「せたがや探究的な学びの実現に向けた授業改善」

- ①「せたがや探究的な学び」を実現するために、国語・社会・算数(数学)・理科・英語の各教科及び、特別の教科、道徳、健康・体力、特別活動(児童会と生徒会の交流、ボランティア活動等)、表現(教科「日本語」含む)、特別支援教育の各部会に分かれ、研究に取り組む。研究にあたり、合同学習会議の結果に基づき、授業における言語活動と、タブレット端末などのICT機器の効果的な活用の充実を図りながら取組を進め、実践に活かしていく。
- ②年間1回「学び舎合同研修会」を行い、学び舎の研究活動の共通理解を図る。令和8年度は、2学期に弦巻中学校で授業公開日を設定し、研究授業を行う。研究授業実施後、研究の成果を共有し、各校の教育内容の充実と授業改善の推進を図る。3学期には1年間の取組を振り返り、研究の成果と課題を協議し、次年度につなげる。

(4) 具体的な学び舎の取組

- ①年に1回、学び舎合同学校協議会を開催し、学び舎として防災・健全育成上の課題について学ぶ機会を設ける。地域・保護者・学校の三者の相互作用による、学び舎の教育の充実を図る。
- ②「マナー・あいさつ・言葉づかい」の取組で、学び舎として、毎月10日を「あいさつ・声かけの日」とし、地域の協力をもって、児童・生徒を見守る環境を整える。
- ③弦巻中学校生徒会等が、「子ども大会」や「緑陰子どもまつり」等にボランティアとして参加する。
- ④2学期に、学び舎の小学生と中学生が連携した落ち葉掃き運動を行う。(予定)
- ⑤弦巻中学校の2年生が体験する職場体験を、優郷の学び舎の松丘幼稚園・弦巻小学校・松丘小学校及び区立弦巻保育園・区立東弦巻保育園・区立西弦巻保育園・さくら幼稚園・いいほいくえん用賀・世田谷いちい保育園北ウイング・世田谷いちい保育園南ウイング・グローバルキッズ世田谷四丁目園・マリアの家保育園に依頼する。
- ⑥「心と体の安全教育」「メディアリテラシー教育」等、発達段階に応じた、幼小中連携した連続した人権教育の充実を図る。